

長崎純心聖母会初代会長・純心女学院初代校長

シスター^{え ずみ}江角ヤス先生 1899(明治32)年～1980(昭和55)年

Sr.江角ヤスの略歴

1899(明治32)年2月 島根県簸川郡に生まれる
1916(大正5)年3月 17歳 島根女子師範二部を卒業する



島根女子
師範学校時代のヤス
(前列左側)

1920(大正9)年3月 21歳 東京女子高等師範学校理科を卒業する
1923(大正12)年4月 24歳 東北帝国大学理学部数学教室に入学する



【この年、帝国大学に女性3人が合格する。江角ヤス、金光榮、酒井十代。10年ぶりの女性帝大生であった。3人とも理学部数学教室。10年前の大正2年入学者(女性初)には、数学教室に牧田らく、化学科に黒田チカ、丹下ウメがいた。】

1924(大正13)年6月 25歳 仙台市カトリック豊屋丁教会にて洗礼を受ける
洗礼名はマリア

1926(大正15)年3月 27歳 東北帝国大学を卒業する(理学士)
同年 4月 京都府立第一高等女学校に数学教諭として勤める(3年間)

1928年～1929年頃 早坂司教より女子教育修道会創立の協力依頼を受ける
1929(昭和4)年 30歳 東京の雙葉高等女学校の数学教諭となる
1930(昭和5)年5月 31歳 新修道会の創立準備および女子教育視察(文部省囑託)のためフランスに派遣される。フランスの聖心会修練院にて修道女となる修練を受ける



向かって右側 江角ヤス



向かって左側 江角ヤス

1933(昭和8)年9月 34歳 修道女としての初誓願を立て、フランス・イギリス・イタリアのカトリック学校を視察し、バチカンで教皇ピオ11世の特別謁見を受け帰国する

1934(昭和9)年6月 早坂司教により、大浦天主堂の「サンタ・マリアの祭壇」前にて長崎純心聖母会が創立され、会長に任命される



創立の地 大浦天主堂



サンタ・マリア像



木彫「創立」

1935(昭和10)年 4月 36歳 純心女学院(翌年、長崎純心高等女学校として認可)がカトリック中町教会の仮校舎にて創設される
校長に就任



創立当初の江角校長先生



最初の中町仮校舎(長崎)



最初の生徒たち

1940(昭和15)年 秋 41歳 鹿児島島の聖名高等女学校(昭和8年創立)を引継ぐ



聖名高等女学校創立当時の姿(昭和9年)

1941(昭和16)年 8月 42歳 聖名高等女学校の設立者および校名変更認可財団法人鹿児島純心高等女学校の理事長に就任

1945(昭和20)年 8月 46歳 長崎純心高等女学校は原爆投下により校舎全壊・全焼(生徒207名・教職員7名が被爆死、Sr.江角も被爆し負傷)

1950(昭和25)年 4月 51歳 長崎に純心女子短期大学創立 学長就任(昭和39年まで)

1960(昭和35)年 4月 61歳 鹿児島純心女子短期大学創立 理事長就任(昭和55年まで)

1962(昭和37)年 4月 63歳 学校法人川内純心女子学園(高等学校)創設

1964(昭和39)年 4月 65歳 学校法人東京純心女子学園創設 理事長就任(昭和53年まで)

1967(昭和42)年 4月 68歳 東京純心女子短期大学創立
社会福祉法人純心聖母会設立 理事長就任

1968(昭和43)年 4月 69歳 養護老人ホーム「恵の丘」創設(長崎市三ツ山)

1970(昭和45)年 4月 71歳 「恵の丘長崎原爆ホーム」(被爆者特別養護)創設(長崎市三ツ山)

同年 4月 山口県「小野田老人ホーム」創設

1974(昭和49)年 5月 75歳 軽費老人ホーム「ときわ荘」創設(長崎市三ツ山)

同年 7月 学校法人純心女子学園理事長に就任

1975(昭和50)年 3月 76歳 長崎市文教町にあった純心女子短期大学を三ツ山に移転

1977(昭和52)年10月 78歳 純心女子短期大学に早坂記念図書館を開設

1980(昭和55)年11月 81歳 「恵の丘長崎原爆ホーム別館」にて帰天

受章・受勲

年 月	年齢	事 項
1956(昭和31)年11月	57歳	長崎県知事教育功労者表彰
1959(昭和34)年11月	60歳	文部大臣教育功労者表彰
1960(昭和35)年11月	61歳	藍綬褒章受章
1964(昭和39)年11月	65歳	長崎新聞文化章受章
1968(昭和43)年11月	69歳	西日本新聞社社会文化章受章
1976(昭和51)年11月	77歳	勲三等宝冠章叙勲
1980(昭和55)年12月	81歳	長崎市榮譽市民